

大島地区不登校等対策研修会

趣 旨

不登校等の未然防止，早期発見・早期対応のために大島地区の現状と基本的な考え方を学ぶことで，生徒指導担当者等の資質を高めるとともに，各学校での対応の充実に資する。

対 象

小中学校の生徒指導主任（係）
養護教諭，SC，SSW
市町村教育委員会指導主事等

期日・会場

[7月28日(金)]
奄美会館
[8月22日(火)]
徳之島町生涯学習センター

講話：「不登校対策に効果的なケース会議が何故必要か
～事例を通してチーム対応の必要性を考える～」

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 松木 繁 教授



学校内での基本的なチーム対応の在り方

- 生徒指導機能と教育相談機能の融合
 - ・教職員間での支援方針に対する考え方の統一
- 教育・心理・福祉的観点からの対応
 - ・教職員，SC，SSWの連携

ケース会議

何かあってからではなく，普段「どの児童生徒に対して，どうアプローチするか」考える。

演習：「校内対策（ケース）会議演習」



ケース会議の進め方

- 1 事例における背景や課題を明らかにする。
- 2 ケース会議（支援チーム）の構成員を決める。
- 3 短期，長期の目標を決める。
- 4 具体的な対策を決める。（誰が，いつ，何を）

担任まかせにしない

生徒指導，教育相談，学習指導など係，SC，SSWといった専門性を生かした構成にする。

全体で125名の参加がありました。参加された先生方からは，「ケース会議は，未然防止の視点からも効果的であることが分かったので，学校で定期的で開催したい。」「不登校対策を担任まかせにせず，役割分担をはっきりさせ，学校でのチーム対応について工夫していきたい。」などの感想が多く聞かれました。